

科目「現代の国語」シラス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代の国語	単位数	2単位	学年・学科	2学年・全科
使用教科書	『新編現代の国語』（東京書籍）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』『常用漢字ダブルクリア』（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。
学習の到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
取得可能な資格	特記なし。
授業を受ける心構え	授業には意欲的・積極的に取り組み、教科書やノート類の忘れ物をしないこと。また、提出物は、必ず期限を守って出すこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5	ルリボシカミキリの青 〈言葉と生活：話す・聞く〉	・筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。 ・本文の内容を踏まえて、自分自身の興味や関心について考え、スピーチする。	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (5月中旬)
6 7	水の東西 (言葉と生活：読む)	・日本と西洋の対比の例から、文化や考え方の違いを理解する。 ・日本文化について、考えたことを発表する。		学期末考査 (6月下旬)
9 10 11 12	スキマが育む都市の緑と 生命のつながり 鍋洗いの日々 美しさの発見	・都市部のスキマに植物が生える理由について考え、生態系の果たす役割について知る。 ・働く人の思いを理解し、社会の中で生きる自分の将来について考える。 ・知識の世界を広げる「発見」と、心の世界を広げる「発見」を理解する	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (10月) 学期末考査 (11月下旬)
1 2 3	真の自立とは 〈言葉と生活：書く〉	・「できる」「できない」「自立」「独立」について筆者の考えを理解し、現代における「大人になる」とはどういうことかを話し合う。	一斉授業 (座学)	平常考査 学年末考査 (2月)

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的な学び 【 】は評価方法
国語分野の基礎的・基本的な漢字・語句・語彙・文法・表現を理解し、生活全般に必要な知識を身に付けようとしている。 【定期考査・平常考査・提出物】	文章の意図を読み取り、要旨をまとめると共に自身の思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、「話す」「書く」といった表現する能力を身に付けている。 【定期考査・平常考査・レポート】	文章内容への関心を持ち、意欲的に「聞く」態度を持つ。国語を理解することへの向上を目指して、「話す」「書く」ことに主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度・提出物・発表】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度		比率(%)	その他
定期考査	24	18	0		42	学習態度の確認
平常考査	16	12	0		28	予習・復習の確認
提出物・授業態度	0	0	30		30	

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	全学科	2	2	高等学校 公共(帝国書院)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。資料から必要な情報を調べまとめる技能を身につける。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら考えたことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	平常課題 夏課題 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

	学習内容	月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1部 第1章	1節 青年期と社会参画	4	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。	他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
	2節 宗教・思想・伝統社会と文化	5	宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し身に付けている。	人々の生活と宗教の関わりの資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容をわかりやすく表現している。	宗教や日本の伝統文化について積極的に調べている。
第1部 第2章	1節 倫理的な見方・考え方		選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。	思考実験などを通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	様々な思想について積極的に学ぼうとしている。
第1部 第3章	第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	6 7 9	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。	公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第1章	1節 法の意義と司法参加	10 11	法に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第2章	1節 民主社会と政治参加	12	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

	2節 国際政治の動向と平和の追求	1	よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第3章	1節 市場経済のしくみ	2	市場のしくみや金融、財政のしくみについて理解している。	自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	市場経済の機能と限界、金融の働き、財政及び租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
	2節 豊かな社会の実現		豊かな社会実現のためのしくみや制度について理解している。	豊かな社会の実現に向けて、様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
	3節 国際経済の動向と格差の是正	3	国際経済の仕組みについて理解している。	国際経済の仕組みについて多面的・多角的に考察し、表現している。	経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学I	全学科	2	3	新 高校の数学I (数研出版)	ポイントノート数学I (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式や2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	三角比や集合と命題、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	三角比を図形的に見るだけでなく座標平面に応用して拡張する力や、データの関係性に着目し、データを的確に分析してその特徴を表、式、図で表し相互に関連付けて考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価基準等			
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
第3章 第1節 三角比	1. 直角三角形	4	○三角形の相似の条件を知って活用できる。 ○三平方の定理の意味を理解し、2次方程式の計算をすることにより辺の長さを計算することができる。	○三角定規の3辺の比を知っており、それを利用して辺の長さを求めることができる。	○相似の性質や三平方の定理を使って残りの辺の長さを求めようとする。
	2. 三角比		○正弦・余弦・正接の意味を理解し、その値を求めることができる。 ○ 30° 、 45° 、 60° の三角比の値を求めることができる。	○求める三角比の角が左下でない場合にも工夫をして値を求めることができる。	○ 30° 、 45° 、 60° の三角比の表を作成して関連性を調べようとする。
	3. 三角比の利用	5	○三角比の表を使って、三角比の値を調べることができる。 ○三角比の表を使って、残りの辺の長さやおおよその角の大きさを求めることができる。	○辺の長さを調べるときにどの三角比の値を利用するのかを理解している。	○塔の高さなど実測できないものについて、三角比の表を使って調べようとする。
	4. 三角比の相互関係	6	○三角比の相互関係の式を2つとも知っている。 ○三角比の相互関係を利用して残りの三角比の値を求めることができる。	○直角三角形の図を使って、残りの三角比の値を求めることができる。	○三角比の相互関係を式を変形して導こうとする。
	5. 鈍角の三角比		○鈍角の三角比の定義を理解し、その値を求めることができる。 ○相互関係や $(180^\circ - \theta)$ の公式を用いて三角比の値を求めることができる。	○鈍角の三角比についての表の意味を理解している。	○鈍角の三角比についての表を作ろうとする。
第2節 三角比の応	1. 正弦定理	7	○正弦定理の意味を理解し、それを利用して辺の長さや角度を求めることができる。	○正弦定理が2つの対辺と対角がある場合に使うことができることを理解している。	○正弦定理を場合に応じて分解して使おうとする。
	2. 余弦定理	9	○余弦定理の意味を理解し、それを利用して辺の長さや角度を求めることができる。	○余弦定理が2つの辺とその間の角または、3辺が与えられたとき使うことができることを理解している。	○三平方の定理が余弦定理の特別な場合であることを知ろうとする。
	3. 三角形の面積		○三角形の面積の公式の意味を理解し、それを利用して面積を求めることができる。	○三角形の面積の公式を導く過程を理解している。	○小学校で学習した三角形の面積の公式との関連性を調べようとする。

用					
第2章 集合と論理	1. 集合	10	○集合について理解している。 ○共通部分・和集合・補集合の意味を理解し、それを求めることができる。 ○集合の個数を求めることができる。	○ $n(A) + n(B)$ がAとBの和集合の個数にならないことを理解している。	○ベン図を使って集合の要素を具体的に調べようとする。
	2. 命題と集合		○命題および真偽について理解している。 ○反例や否定の意味を知っており、それを求めることができる。	○数直線を利用して真偽を判定することができる。	○集合を用いてその命題の真偽を調べようとする。
	3. 必要条件と十分条件	11	○必要条件と十分条件について理解しており、その条件が何条件かを求めることができる。	○集合や数直線を利用して何条件かを調べることができる。	○命題の逆や対偶を自分で作ろうとする。
第3章 データの分析	1. データの整理	12	○データの度数や階級について知っており、度数分布表やヒストグラムを作ることができる。 ○階級地の意味を知っている。	○度数分布表やヒストグラムを見て、データの分布の特徴について考えることができる。	○データについて関心を持って調べようとする。
	2. データの代表値		○最頻値・中央値・平均値をデータから求めることができる。	○最頻値・中央値・平均値の意味を理解している。	○最頻値・中央値・平均値よりデータの特徴を調べようとする。
	3. データの散らばり		○四分位数を求めて、箱ひげ図を書くことができる。 ○分散や標準偏差を計算により求めることができる。	○データが奇数個、偶数個のときの四分位数をそれぞれ求めることができる。	○箱ひげ図や標準偏差の値からデータの散らばりを調べようとする。
	4. データの相関	1 2 3	○散布図によりデータの散らばり具合を調べて、2つのデータの相関を調べることができる。 ○相関係数を求めて、2つのデータの相関を調べることができる。	○散布図や相関係数により、正の相関がある・負の相関がある・相関がないことを判断することができる。	○2つのデータの相関を予測し、図や計算で確認しようとする。
	5. 仮説検定の考え方		○仮説検定の意味を理解している。	○データに対してその仮説が正しいか計算で求めることができる。	○データをもとに自分で仮説を立てて調べようとする。

		1節 タンパク質 (1h)	・アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解する。	一学期中間考査	○			
		2節 タンパク質と遺伝情報 (3h)	・遺伝情報は、ATGCの4つの文字のみで表現されていることから、4文字の組み合わせによって膨大な情報を表現できることに気づく。		○	○	○	
		3節 細胞の分化と遺伝子 (1h)	・細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで、多種の細胞に分化することを理解する。		○		○	
	10	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ						
		1節 体内環境 (2h)	・体内環境と体液の関係について理解する。	一学期末考査	○			
	2節 神経系による情報伝達 (3h)	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。	○		○	○		
	11	3節 内分泌系による情報伝達 (1h)	・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について理解する。		○		○	
		4節 血糖濃度の調節 (2h)	・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。	○	○	○		
	12	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき						
		1節 免疫のしくみ (2h)	・ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する。	一学期末考査	○	○		
		2節 免疫の応用 (2h)	・体内の抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。予防接種のしくみを理解する。		○	○	○	
		3節 免疫とさまざまな疾患 (2h)	・アレルギーの定義や症状について理解する。		○		○	
3	1	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移						
		1節 身のまわりの植生 (2h)	・さまざまな環境に多様な植物が生育していることに気づく。	学年末考査	○	○	○	
		2節 植生の遷移 (3h)	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。		○	○	○	
	2	3節 遷移とバイオーム (3h)	・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。		○	○	○	
	2	4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性						
		1節 生態系における生物の多様性 (2h)	・食物網について理解する。	学年末考査	○	○	○	
		2節 生態系における生物間関係 (2h)	・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。		○	○		
		3	3節 生態系と人為的攪乱 (2h)		・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解する。	○	○	○
	4節 生態系の保全 (3h)		・環境アセスメントの具体的な事例を基に、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。		○		○	

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	2単位	学年・学科	全学科2学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2023				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらす、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をする事なく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	体づくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める	一斉・グループ	ラジオ体操
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ	個別	水泳
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ		球技
7		○仲間との協力とともに技能を高める		補習(水泳)
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ	球技
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。	個別	陸上競技
11	陸上競技(長距離走)	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		補習(長距離)
12	球技選択			ロードレース
1	体づくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための	一斉・グループ	球技
2	球技選択	運動、実生活に生かせる運動を行う。	個別	陸上競技
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目「保健」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	保健	単位数	1単位	学年・学科	全学科2学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)				
副教材等	現代高等保健ノート(大修館)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	健康に関する興味関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用して思考力、判断力を育成する。
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力が身につく。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	主体的に授業に参加し、定期考査を受ける。提出物を必ず提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	健康の考え方 生活習慣病などの予防と回復	○健康の考え方と成り立ち、疾病構造の変化 ○生活習慣病とその予防、がんの予防 ○食事、運動等と健康	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
9 10 11 12	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 現代の感染症とその予防	○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ○精神疾患の特徴、予防 ○健康に関する意思決定、行動選択 ○現代感染症と予防	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
1 2 3	安全な社会作り 応急手当	○事故の現状と発生要因 ○交通安全 ○応急手当の意義とその基本 ○日常的な応急手当○心肺蘇生法とその原理	一斉授業 グループワーク 実習	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価の観点	生涯を通じると健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について課題の解決を目指して総合的に考え、判断しそれらをあらわしている。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法割合等	・定期考査・平常考査 ・提出物・発表	・定期考査 ・提出物 ・授業状況 ・平常考査 ・発表	・定期考査 ・平常考査 ・授業態度・出席状況
評価の方法割合等	4割	3割	3割

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 2年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル①、② (数研出版)、チャンクで英単語Basic、ドリルノート (三省堂)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	積み重ねの教科であり、中学校の基礎から高校の基礎につなぐ。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをしっかりと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】 (= 【主】)、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考查
4 5	Lesson 1 Places Worth Visiting	<ul style="list-style-type: none"> ダイキとエラの旅先での体験について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 S+V+O+to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 行ってみたい場所を発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する語句 want+人+to do 行ってみたい場所について英語で書く・発表する 	平常考查 中間考查
6 7	Lesson 2 Iwago Mitsuaki パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 疑問詞+to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 学習した語句を使って自分の意見を話し、書くことができる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する語句 疑問詞+to 不定詞 お気に入りの写真について英語で自分の意見を書いたり、話したりする。 	平常考查 期末考查
9 10	Lesson 3 The Haka	<ul style="list-style-type: none"> ハカについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 分詞の用法を理解している。【知識・技能】 分詞を用いて、自分の周りについて伝え合う技能を身につける。【知識・技能】 興味のある世界の文化について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する語句 分詞 興味のある世界の文化について書いたり、話したりする。 	平常考查 中間考查
11 12	Lesson 4 Digital Detox パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する語句 if 節・疑問詞節 デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表する。 	平常考查 期末考查
1 2 3	Lesson 5 Goal Setting パフォーマンス Lesson 6 The High School Hair Salon	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> seem + to 不定詞 自分が立てた目標についてやり取りする。 助動詞+have+過去分詞 就きたい職業について発表する。 	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な単語や語句の意味を理解し、正しく発音できる。 例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 <p>【授業中の態度】 【定期考查6割・平常考查4割】 【パフォーマンステスト】 【提出物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 <p>【授業中の態度】 【定期考查6割・平常考查4割】 【パフォーマンステスト】 【提出物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 他の生徒の発表を聞いたり、発表しようとしている。 提出物を期限を守って提出している。 <p>【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】</p>
4割	3割	3割

科目「家庭総合」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭総合	単位数	2単位	学年・学科	2学年・農業、園芸、畜産科学、食品化学
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	家族や家庭の生活の営みを総合的にとらえ、生活をマネジメントする能力を育てる
学習の到達目標	生活のなかで課題を見だし、それを解決するための手立てを考え実践に繋げる
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	社会の動きに関心を持ち、把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	食べる ・食品と栄養 ・食品の衛生と安全 ・これからの食生活	・栄養素のはたらきを理解させる ・正しい食品の選択ができるようになる ・基礎的な調理技術を身につけさせる ・持続可能な食生活について考える	・一斉授業 ・調理実習	レポート 小テスト 学期末考査
9 10 11 12	子どもの発達と保育・福祉 ・子どもの発達と生活 ・親の役割と子育て支援	・子どもの心身の発達を理解する ・親の役割を考え、子育て支援制度について知る。	・調理実習 ・絵本の読み聞かせ ・調理実習	レポート 小テスト 学期末考査
1 2 3	高齢者の生活と福祉 ・高齢者の生活と課題・高齢社会の福祉 共生社会における地域や家族	・高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者や家族が抱える課題を知る。 ・福祉制度を理解し、これからの高齢社会について考えることができるようになる ・地域福祉と社会保障について理解する	・一斉授業 ・調理実習	レポート 小テスト 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
生活を主体的に営むために必要な食生活・保育および高齢者福祉などについて科学的に理解しているとともに、それらにかかる技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して食生活・保育および高齢者福祉における生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や地域社会の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
【定期考査・小テスト】	【レポート、課題プリントなど】	【レポート、授業態度等】
4割	3割	3割

科目「総合実習」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習	単位数	4(2)単位	学年・学科	2学年・農業科
使用教科書					
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。農業の各分野に関する実践的・体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を体系的・系統的に習得できるようにして、経営や管理、及びその活用について理解を深め、企画力や管理能力、活用技術などを身に付けて、農業の各分野の改善に向けて取り組むことができるようにすることをねらいとしている。
学習の到達目標	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	農業実習に意欲・関心を持って取り組もう。5分前行動を身につけよう。実習服を忘れないこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	作物の播種・定植準備	・作物や野菜の基本的な栽培技術やその手順について理解させる。 ・作物や野菜の栽培管理を通して、主体的な農場運営態度を身につけさせる。	・班別実習	平常考查 学期末考查
5	花苗・トマトの管理			
6	田植え、サツマイモ定植			
7	トマト・アスパラガス収穫			
9	各種野菜の栽培管理	・作物や野菜の収穫や販売を通して、商品化に必要な調整技術と接客態度を身につけさせる。 ・農場実習や各種の行事を通して、使命感とともに、企画・立案能力を身につけさせる。	・班別実習	平常考查 学期末考查
10	米・野菜の収穫・販売			
11	現場実習および報告会			
12	菊農フェスタでの取り組み			
1	次作の準備	・次作の準備に必要な内容や方法について理解させ、計画的な栽培の在り方について学ぶ。 ・1年間の学習のまとめと成果の報告を行う。	・班別実習	平常考查 学年末考查
2	専攻学習への準備			
3	学習のまとめ			

3. 評価の観点と方法

知識・技術(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度(3割) 【 】は評価方法
実習の取り組みのなかで、各作物の基本的な栽培知識や技術の習得が見られ、実習記録簿や調査用紙においても自らの応用工夫が見られる。 【定期考查・平常考查】	作物・野菜ごとの特徴や栽培方法の違いについて理解しようとする姿勢があり、それらを調査し、記録として残すことができる。 【定期考查、平常考查、提出物、ポートフォリオ、授業態度、出席状況】	総合実習の心構えについて理解し、それぞれの実習内容について興味・関心を持って、自ら意欲的に取り組もうとしている。 【ポートフォリオ、授業態度、出席状況】

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業と情報	単位数	2単位	学科・学年	農業科2年
使用教科書	『農業と情報』 実教出版 発行				
参考資料	特記なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を育成することを狙いとしている。
学習の到達目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	(上記の資格の取得を目指す)
授業を受ける心構え	技術の習得とさらなる向上を目指し、演習に対し積極的に取り組む。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	3. コミュニケーションと情報デザイン	さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。 (表計算ソフトの活用)	・一斉授業 ・演習 ・グループ	定期考査 平常考査
9 10 11	3. コミュニケーションと情報デザイン	さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。 (プレゼンテーションソフトの活用)	・一斉授業 ・演習 ・グループ	定期考査 平常考査
12 1 2 3	4. スマート農業への展望	スマート農業やAI等の計測・制御・通信の仕組み、データベースによる情報蓄積や管理の概念、モデル化やシミュレーションの方法や考え方を理解する。また、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、プログラミングの意義や役割を理解する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ	学年末考査 平常考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価割合の方法	【定期考査、平常考査、確認テスト】	【定期考査、平常考査、授業態度・発表、提出物】	【平常考査、ポートフォリオ自己・相互評価、授業態度・発表、提出物】
	4割	3割	3割

科目「作物」シバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	作物	単位数	2単位	学年・学科	2学年 農業科
使用教科書	作物(実教)				
副教材等	HP等からの自作資料を掲示することもある。				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質能力を育成することを目指す。
学習の到達目標	①作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業にかかわる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	教科書、ノート、プリントを忘れないこと。説明をよく聞き、安全に実習を行うこと 座学・調査・実習に積極的に参加し、自主的、意欲的に取り組むこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	◎作物とは ◎作物の種類と特徴 ◎作物とフードシステム ◎イネの栽培的特性	○「作物」とはどのような農作物をしめすのかを理解させる。 ○環境保全型農業や農業生産工程管理(GAP)の導入の必要性を理解させる。	一斉学習(座学) 実習(イネの予措 播種・田植え・水 田管理)	定期考査 平常考査
9 10 11 12	◎作物の生育と整理 ◎イネ栽培的特性 ◎栽培環境と生育の調整 ◎農業生産工程の改善	○イネの器官とイネの生育・品種特性について理解させる。 ○イネの生育環境と栽培技術を理解させる。 ○生産記録や農具、倉庫の整理整頓の大切さを理解させる。	一斉学習(座学) 実習(水田管理・ 稲刈り)	定期考査 平常考査
1 2 3	◎栽培環境と生育の調整 ◎イネの栽培管理 ◎1年のまとめ	○イネの生育環境や品質について理解させる。 ○イネの栽培技術についてまとめる。	一斉学習(座学)	学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 (3割)【 】は評価方法
	作物の種類と特徴、栽培技術・管理に関する基本的な技術と知識を身に付け、栽培技術に関する諸活動を合理的に計画しその技術を適切に活用している。	イネの栽培に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、農業経営者および理解者に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	作物について、基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考査、平常考査、確認テスト、実習 等】 4割	【定期考査、平常考査、授業態度、提出物】 3割	【平常考査、授業態度、提出物、】 3割

科目「野菜」シラス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	野菜	単位数	2単位	学年・学科	2学年 農業科
使用教科書	野菜(実教出版)				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を育成することを目指す。また、野菜生産を農業経営の視点で捉え、生産性及び品質の向上や経営の発展と関連付けて考察するとともに、野菜生産や経営に関するプロジェクト学習などの実践的・体験的な課題解決学習を通して、野菜生産と経営に必要な資質・能力を育成することをねらいとしている。
学習の到達目標	(1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	日本農業技術検定
授業を受ける心構え	教科書、ノートを忘れないこと。自主的、意欲的に授業に取り組むこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1. 野菜生産の役割と動向 2. 農業技術検定学習 3. 露地野菜の栽培管理	1. 野菜の生産と消費の動向、安全な野菜づくりについて理解することができる。 2. 農業技術検定に向けて学習に取り組む 3. 露地野菜の栽培について理解を深める	・一斉授業 ・実習	中間考査 平常考査 学期末考査
9 10 11 12	1. 野菜の生育と生理 2. 野菜の栽培環境と生育調節 3. 農業技術検定学習 4. 露地野菜の栽培管理	1. 播種～収穫までの野菜の生育と生理について理解することができる 2. 野菜を取り巻く栽培環境とその影響について理解することができる 3. 農業技術検定に向けて学習に取り組む 4. 露地野菜の栽培について理解を深める	・一斉授業 ・実習	中間考査 平常考査 学期末考査
1 2 3	1. 人工環境における栽培技術 2. 施設野菜の栽培管理	1. さまざまな栽培技術があることを知り、それらの特徴について理解を深める 2. ビニルハウスの設営等を通して、野菜栽培における施設の利用について理解する	・一斉授業 ・実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技術(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 (3割) 【 】は評価方法
実習の取り組みのなかで、各作物の基本的な栽培知識や技術の習得が見られ、実習記録簿や調査用紙においても自らの応用工夫が見られる。 【定期考査・平常考査】	作物・野菜ごとの特徴や栽培方法の違いについて理解しようとする姿勢があり、それらを調査し、記録として残すことができる。 【定期考査、平常考査、ポートフォリオ提出物、授業態度、出席状況】	総合実習の心構えについて理解し、それぞれの実習内容について興味・関心を持って、自ら意欲的に取り組もうとしている。 【ポートフォリオ、授業態度、出席状況】

科目「地域資源活用」シラス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	地域資源活用	単位数	2単位	学年・学科	2学年 農業科
使用教科書	地域資源活用(実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うなどを通して、農業や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを旨とする。 (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指してみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
学習の到達目標	農林業・農山村の特色や地域資源の有用性について、農山村と都市の取り組みと課題を調べる学習を通して、農林業・農山村の実態や地域社会の在り方、そこで新たな仕事をうみだす起業活動などに関連する知識と技術を体系的、系統的に理解し、身につけるようにすること
取得可能な資格	農業技術検定への受験に活かす
授業を受ける心構え	地域資源の活用について、新たな価値の創造に寄与できるようみずから学び、農業の振興や社会貢献の意味を知り、これからの時代にどう活かすか考えよう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1. 地域資源活用とは 2. 農山村社会の変化 と地域振興	○課題意識を持って学習に臨み、「農業と環境」で習得したプロジェクト学習の方法を踏まえ、地域資源活用に関するプロジェクト学習の意義とその位置づけを理解する ○農山村および都市の歴史や自然と共生した暮らしについて理解する。	一斉学習 実習	中間考査 学期末考査
9 10 11 12	3. 地域資源活用の 意義と役割 4. 地域資源の価値と 活用	○農業林業の特徴を知り、その魅力について理解する ○農山村の景観を資源として捉える。 ○市民農園・観光農園について知る 〔農村ビジネス考案のためのグループワーク〕	一斉学習 実習	中間考査 学期末考査
1 2 3	5. 地域と連携した活動	○地域資源のマーケティングと地域のニーズや地域ブランドづくりについて理解する 〔地域ブランド化のためのグループワーク〕	一斉学習 実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 (3割) 【 】は評価方法
地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 【平常考査・通常考査】	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【ポートフォリオ・定期考査・通常考査・授業態度】	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるようみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 【授業態度、出席状況・レポート課題】